

(第三種郵便物認可)

タイと日本の主催で国連ウェーサク式典

仏教的視座から各種提言

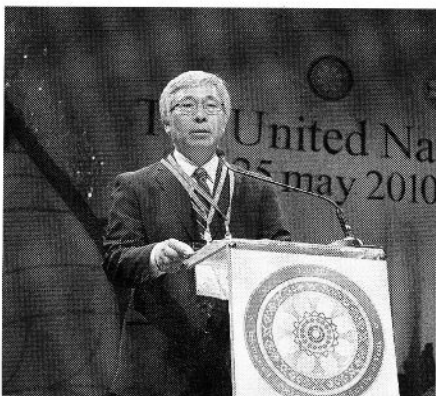
バンコク



日本とタイの主催者らによる記念撮影。右から5人目がダマコサジャン学長。その左が叡南寛範氏(25日)

5月23日から25日までタイのバンコクで開かれた第7回国連ウェーサク式典。世界83カ国・地域から1800人が参加した。主催団体は国連ウェーサクの日・国際委員会のプラ・ダマコサジャン議長が学長を務めるマハチュラロンコン仏教大学(MCU)と日本のITRI(松本廣代表)である。「世界的な回復―仏教的視座から」をテーマに式典や分科会が開かれ、最終日に11項目からなるバンコク宣言を採択した。

式典には日本から、世の役員をはじめ天台宗務界連邦仏教徒協議会(世庁の斎藤圓眞教学部長、連仏)の叡南寛範会長(天京都・霊雲院国際禅交流台宗庫沙門堂門跡門主) 友好協会の則竹秀南会



開会式で挨拶するITRIの松本副代表(23日)

“忘己利他”で平和を

天台座主がメッセージ

長、高野山大学の生井智紹教授らが参加。ITRI(日本センター(浅川重美会長)からは600人超が参加し、タイ側を安堵させた。

初日は、MCUアユタも、一昨年、ウェーサク

ヤキャンパスで開会式が行われた。主催者を代表し、ダマコサジャン学長に続いてITRIの松本正二副代表が挨拶。日本仏教の歴史を紐解きつつ、「仏教大国」と言われながらも現在は仏教的価値観や道徳観が衰退していることを憂慮。

そして「もともとウェーサクを祝う習慣がなかった大乘仏教の日本で、あるアリアラトネ博士が

祭に関心を持つ仏教徒の皆さんと国連ウェーサクの日・日本設立委員会を立ち上げ、日本におけるウェーサク祭の普及を開始した。やがて日本においても国連ウェーサク祭の精神に基づく宗派を超えた独自のウェーサク祭が開けることを期待して」と述べた。

その後、スリランカのサルボタヤ運動創始者であるアリアラトネ博士が

テーマに沿って基調講演。今日の世界が抱えている貧困や温暖化、暴力、テロなどの諸問題を列挙し、仏教的な考えに基づいた解決方法を語り、ついでに52年にわたる目覚めの運動たるサルボタヤ運動の取り組みを報告。そうした実践やには四諦八正道が有効だとした。

2日目は同キャンパスで、主に専門家による5分科会(福祉・調和的共生・仏教経済・仏教教育・エンゲージドビジネス)と2ワークシヨップ(共通仏教テキスト・仏教テキストの一体化)が開かれた。斎藤圓眞氏は仏教教育分科会で天台宗の一隅を照らす運動の取り組みを報告した。

3日目はバンコク市内の国連会議センターでの記念式典。タイ政府からは2人の大臣が出席し、歓迎の挨拶を述べたほか、各国代表らが次々と発言した。

世連仏の叡南会長は半田孝淳天台座主から託されたメッセージを紹介し、伝教大師の「己を忘れて他を利用するは慈悲の極みなり」の教えに依れば平和が訪れるとした。続けて世連仏会長として、今日の行き過ぎたグローバル経済に警告を飛ばし、プータン政府が取り組んでいるGNH(国民総幸福)の価値観に注目するよう訴えた。ITRI(日本センター)の浅川会長は「世界平和は家庭から」と足元からの実践を呼びかけた。

最後にダマコサジャン学長によってバンコク宣言が読み上げられ、3日間にあわせたウェーサク式典の幕を閉じた。